

# 浦見川

福井県三方町気山小字切迫

三方町は、若狭湾国定公園のほぼ中央に位置し、若狭湾の中心に突き出している常神半島とその懐にある五つの湖、まわりを囲む山々が絶妙のバランスをたもち美しい地勢をつくり上げている街である。また、比較的温暖な海洋性気候のため梨・柿などの果樹が豊富に収穫され、農業、漁業ともに盛んである。「文化・観光」三方五湖、三方石観音、鳥浜貝塚、西浦海水浴場



三方町の三方五湖は、風光明媚な景色をもつっぽう、水害の源となり人々を苦しめてきた。これを防ぐには既存の川（気山川）を浚渫するか、新たに浦見坂に新川を設けるしかない。浚渫は工事は簡単だが維持が難しいので、奉行方久兵衛は新川開削を決断した。

「掘りかけて、通らぬ水のうらみこそ底行方のしわざなりけり」これは、当時、相当の難工事に従事した人夫たちが行方久兵衛をうらんで詠んだ歌である。

しかし浦見川の完成により、生倉、成出の二村が生まれ、湖畔には九〇ヘクタールをこえる新田もひらかれた。浦見川は現在も住民を水害から守るとともに、観光の町三方の湖の玄関として、一日に五〇隻をこえる観光船が行き来している。